

# 1. ゼミ活動

MONTH  
10

ゼミ配属  
本・論文拝読

自分の興味のある分野にかかわる本や論文を読んで、内容のほか、感想や気づきをまとめた。  
本は先生の研究室にある本より、論文はJ-STAGEより引用。  
ゼミの時間に意見の交流。ただし、この活動は今後も続けていく方針である。

今まで読んだ本



**まちづくり教書**  
これからのまちづくりや地域に取り巻く問題や対策を多角的な視点で分析している書である。  
学び  
まちづくりのノウハウだけでなく、どこでどんな街づくりが行われているを知るきっかけになった。



**ローカルライフマガジン TURNS**  
地域を活性化するために行われたリノベーション事例がいくつか掲載されている。  
学び  
元の建物の良さを生かしつつ、その建物に込められた様々な人々の熱い思いをリノベーションによっていかに投影できるかということが知れた。

11

## 湯原へ

先輩の卒業制作の情報収集に、湯原へ同行させていただいた。  
湯原では、先輩の卒業設計の敷地の見学や湯原観光協会や周辺の宿泊施設油屋さんへのインタビューと一緒に参加させていただいた。

湯原地区の様子

自然あふれる空気の澄んだ場所であったが、温泉街は人けも少なく、すたれた印象を抱いた。



油屋さん

## ゼミ旅行の計画

ゼミ旅行の行き先をゼミ生各々で調べ、PowerPointでまとめた。西村は滋賀エリアを担当し、ラコリーナ近江八幡、佐川美術館などを事前調べをした。ゼミの時間に他のメンバーと情報共有し、ゼミ旅行でのイメージを膨ませる機会になった。



12

## ゼミ旅行

1日目に京都、2日目は滋賀の近江八幡エリア、3日目は滋賀の彦根エリアを巡った。  
2日目からは表町商店街にあるとりいくぐろの成田さんや、長浜まちづくり会社のスタッフさんも同行していただき、意見交流も含めたワークショップをおこなった。



1日目の京都 先斗町

京都ならではの路地や袋小路が多く見られた。予想以上に行き止まりが多いことに驚いた。

2日目の長浜まちづくり株式会社 (BIWAKO PICNIC BASE)

町家をリノベーションしたコワーキングスペース  
長浜では市民中心の自由なまちづくりが印象的。



## ゼミ旅行報告

ゼミ旅行で興味をひかれたことやスケッチをまとめ、提出後先生にアドバイスをもらった。

## 卒業研究のテーマ決め

自分の興味あることを改めて調べ、Wordにまとめた。

内容は興味あるテーマだけでなくテーマを取り巻く問題や研究対象なども考慮した。

先生のアドバイスから、頭の中のイメージと現状のリンクを大切にしていこうと思った。

祇園新橋のスケッチ (ゼミ旅行報告書より)



CONTINUE.

# 2. プロジェクト

## 1. 吉備中央町酒蔵プロジェクト

今期は主に建築事務所ココロエの片岡さんにアドバイスをもらいながら、実測調査を行なった。  
その他、前年度から継続している酒蔵の清掃や整理なども実施した。

実測の様子

距離があるところはレーザー距離計で、柱や距離の届く距離はコンベックスで測った。  
初めて使用したレーザー距離計は少しの障害物も感知してしまうので難しかった。



レーザー距離計



実測場所の様子

## 2. 鞆の浦 鞆銀座商店街にぎわいプロジェクト

プロジェクト演習の活動でもありましたが、ゼミではインタビューの中で知った縁台の現代風復刻版であるネオ・えんだらーの製作援助や、2月に開催された縁日(ともこども商店街)の手伝いをする。

とも銀座商店街と“えんだらー”

かつてとも銀座商店街としてのにぎわいの創出を図るために始まったプロジェクト。今年度はえんだらーを通して地域のコミュニティ形成に貢献した。



縁日のポスター “こども”の文字は小学生による制作

# 3. 個人活動

## 1. まち歩き

卒業研究における自己の興味の分析もかねて、いくつかの町並みやリノベーション促進地区を放浪した。  
建物の特徴やまちの統一感など、実際に目で見ることで得られた発見や学べることもたくさんあった。

訪れた場所



高梁 本町・下町の町並み



勝山町並み保存地区



吹屋町並み保存地区



福山市 伏見町地区

白壁の武家屋敷などが立ち並ぶ城下町 かつて出雲街道の宿場町として栄えた 鉾山町であり、ベンガラ色の建物が特徴 近年リノベーション化が進んでいるエリア

## 2. 総社商店街町家および空き家の調査

総社商店街にて、空き家、町家の分布をグループになって調査し、地図に落とし込んだ。

調査項目は建物の現状や、建築様式などである。この調査では歴史の風合いを残している物件の保存・再生利活用の促進が目的である。解体され新しい建物がいくつか建てられているという考察と課題も得ることができた。調査報告会にも参加し、総社だけでなく倉敷や金光地区のNPO団体や市役所さんらによる勉強会も開かれた。空き家の利活用に関する新たな知識だけでなく、自分の持つ疑問や考えを実践で働く方々へ共有する良い機会であった。

— 空き家  
— 町家  
— 空き家兼町家

空き家調査分布図

空き家の割合が約10%、町家の割合は約20%、空き家に対する町家の割合は約40%であった。それぞれ分図は筋に集中している印象を受ける。



実測の様子